

結婚指輪をつけていますか？ 結婚生活が長くなるほど、指輪を外す傾向。 しかし女性は30年を越して再びつけるように。 ～『夫婦関係調査2012』より～

株式会社リクルート(本社:東京都千代田区 代表取締役社長 兼 CEO: 峰岸真澄)が運営するブライダル総研では、夫婦関係の状況について詳細に把握するために、全国の20代から60代の既婚者2,000人を対象に実施した『夫婦関係調査2012』から見えてきた、夫婦の満足度や夫婦関係に関する分析をお伝えいたします。

① 男性は結婚生活が長くなるほど、結婚指輪を外す。 一方女性は、30年をこえて再び結婚指輪をつける。

『夫婦関係調査2012』によると、20代から60代の既婚者に、「結婚指輪をつけているか」を聞いてみたところ、結婚生活が長くなるほど結婚指輪をしなくなる傾向があることがわかりました。

結婚3年以下ではおよそ84%が指輪をつけているにもかかわらず、10年以上では半分以下に減ってしまいます。

男女別に見てみると、男性は結婚生活が長くなるほど結婚指輪をしなくなる傾向があります。一方、女性も結婚生活が長くなるほど結婚指輪をしなくなるものの、30年を過ぎてから再び「たまにする」ようになります。

② 夫が思うよりも妻は結婚指輪をつけていない。 しかし30年を越してから結婚指輪をつけるようになることは夫も認識。

続いて、「配偶者は指輪をつけているか」を聞いてみたところ、結婚生活が4年以上経つと、本人と配偶者の意識にズレが生じてくるようです。

結婚生活が4年以上経った人では、夫は、配偶者(妻)が認識しているよりも実際に結婚指輪をよくつけているにも関わらず、妻は、配偶者(夫)が認識しているよりも実際には結婚指輪をつけていません。

女性は男性と同様に経年で指輪を外すだけでなく、装飾として結婚指輪以外の指輪をつける分男性は結婚指輪をしていると認識しているのかもしれませんが。

しかし、結婚生活が30年を過ぎてから女性は結婚指輪をつける機会が増えており、そのことを配偶者(夫)も認識しているようです。銀婚式(結婚25年)や真珠婚式(結婚30年)などの節目に夫婦の絆を改めて感じ、再び絆の証として結婚指輪をつけるという行動に出るのかもしれませんが。

◆ 出版・印刷物へデータを転載する際には、「リクルート ブライダル総研調べ」と明記いただけますようお願い申し上げます。

【リクルート ブライダル総研】

「ブライダル総研」は、株式会社リクルートのブライダルカンパニーに設置されている調査・研究組織です。結婚や結婚式に関する調査・研究、未来への提言を通じて、ブライダルマーケットの発展に貢献することを目的として活動しています。

「ブライダル総研リサーチニュース」バックナンバー
ブライダルに関する豊富な調査データはこちらをご利用ください

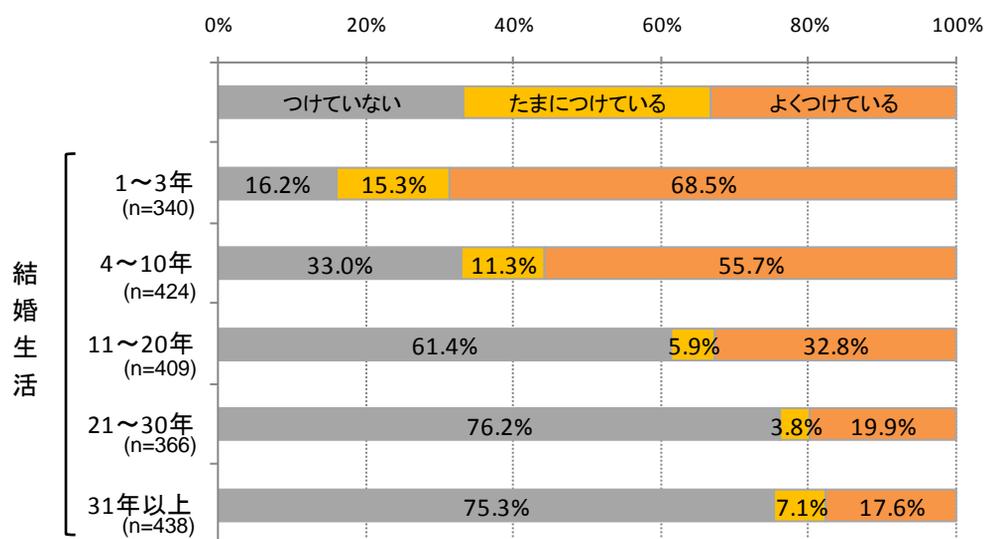
<http://bridal-souken.net/>

■調査名:『夫婦関係調査2012』より

【参考データ】

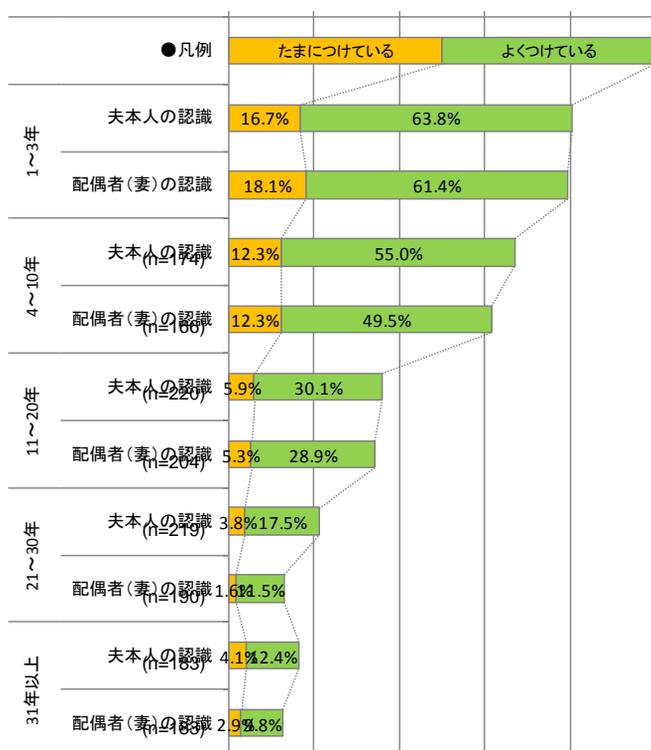
■結婚指輪をつけているか(結婚した時期を回答した人/単一回答)

結婚指輪をつけているか(n=1977)



夫の結婚指輪

0.0% 20.0% 40.0% 60.0% 80.0% 100.0%

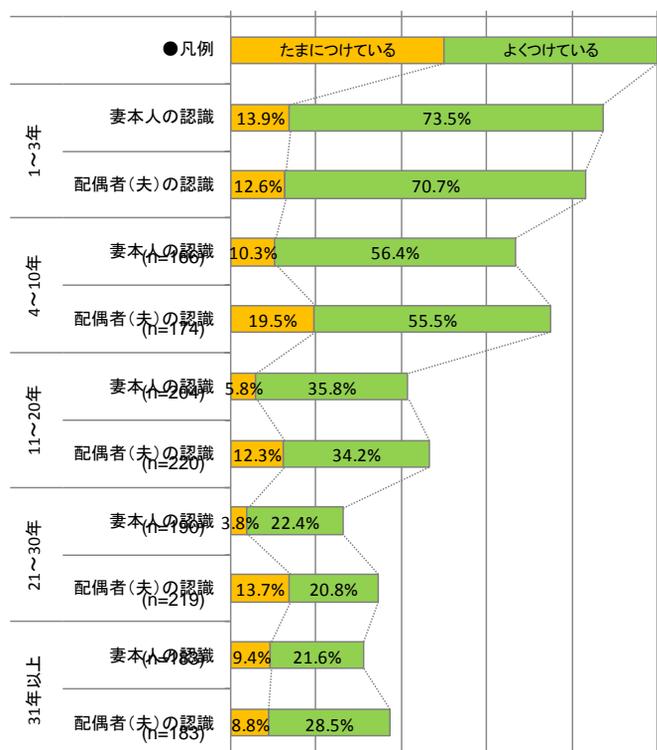


(n=193)

(n=245)

妻の結婚指輪

0.0% 20.0% 40.0% 60.0% 80.0% 100.0%



(n=245)

(n=193)

■調査名:『夫婦関係調査2012』より

【調査概要】

【調査方法】 インターネットによるアンケート調査

【調査期間】 2012年2月16日(木)～2月21日(火)

【調査対象】 全国の「既婚者かつ本人初婚」の20～60代の男女

【集計サンプル数】

◆東名阪: 1,000(20代男女、30代男女、40代男女、50代男女 各100 / 60代前半男女、60代後半男女 各50)

※「東名阪」とは、首都圏(東京・神奈川・千葉・埼玉)、東海(愛知・岐阜・三重)、関西(大阪・兵庫・京都・奈良・滋賀・和歌山)を示します。

◆東名阪以外: 1,000(20代男女、30代男女、40代男女、50代男女 各100 / 60代前半男女、60代後半男女 各50)